

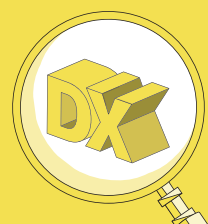
#02

アイデアを形にし利用運送を効率化
空車と荷物を即座にマッチング



岡山流通株式会社

取材相手：代表取締役 川上 文行



Company Profile

■ 所在地：岡山県岡山市南区藤田804-1
■ 従業員数：9人 ■ 設立：1995年 ■ 業種：貨物利用運送業

デジタル化に取り組んだ背景は。

1990年12月に貨物利用運送事業法が施行され、トラックなどの輸送手段を持たなくても荷主からの依頼を受けて、運送業者を利用して運送することが可能となりました。知人からそのことを聞き、運送会社は荷物が積み地から降し地までの片道のみのため、帰路の空車を埋めるのに苦労しており、車両と荷物のマッチング需要は必ずあると考え、1995年11月に貨物利用運送業として創業しました。始めてみると事務員の負担が大きく、2人体制で運送業者からの買掛台帳と荷主への売掛台帳を手作業で差し引きして相殺する転記と再計算の繰り返しでした。創業から3年が経った頃に「これは人がする作業ではない」と一念発起し、システム化に向けた取り組みを始めました。

私は、思い付いたらやらないと気が済まない性分で、システムの流れやアイデアを実現できる既存ソフトを探しましたが合うものがなく、自社開発により3年間で基盤となるシステムを開発しました。その後、システム開発の子会社ア・オリジナル有限会社を立ち上げ、岡山市北区芳賀の岡山リサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）に第1期として入居し求車求荷情報を管理、マッチングするネットワークシステムの開発に取り組み、2006年に現在も使用している「WARCS（Wide area resource communication system）」の運用を開始しました。



どのようなシステムですか。

従来、オペレーターが手作業で、荷主からの求車情報と運送業者からの求荷情報を照合していましたが、取引先数の増加で情報量が増え限界となっていたため、一元管理できるシステムを開発して効率化とスピードアップを図りました。インターネットや電話、ファクスで全国から収集した求車求荷情報をデータベース化し、荷物の重量や容積、車種、積載量などの条件で検索し最適な組み合わせを瞬時に選び出すことができます。以前のシステムと比べて約5倍の情報量に対応できるようになりました。

現在は、岡山発着で九州、中国、四国、近畿、東海・関東の地区ごとに専任の担当者を据え、本社内に設置した9角形のデスクに向かい合って座り、互いの顔が見える状況で情報収集と入力作業をしています。およそ3,000社



の運送業者の情報を取り扱っており、住宅、建築建材メーカーなど製造業を中心に荷物を運送しています。

配車やマッチングだけでなく、請求、支払い、会計処理まで貨物利用運送に必要なすべての機能を備えているのも特徴です。クラウドシステムとして開発しており、コロナ禍でテレワーク環境の整備が求められる中、セキュリティを強化して在宅での業務も可能としました。実際在宅で勤務するケースもあるなど働き方改革にもつながっています。



課題に感じていることはありますか。

ウェブ技術が進化する中で、世間のニーズに応え続けられるサービスに随時更新していく必要があります。例えば、スマートフォンで荷物情報を入力すればすぐに見積もりが表示できたり、人と会話しているような受け答えを自動で行う「AIチャットボット」による精度の高いQ&Aの導入などです。2022年10月から、岡山県産業振興財団の専門家派遣事業で紹介された、一般社団法人AI・IoT普及推進協会代表理事の阿部満さんからアドバイスを受けました。課題解決の糸口が探れたことに加え、DX認定制度への認定を目指すなど方向性を定めることができました。

事業拡大に向けたプロモーションも課題で、新規顧客の獲得、サービスエリア拡大を目指し、業務フローを含めた動画制作を進めていく計画です。



今後の展望を教えてください。

燃料費の高騰、人材不足などで、運送業務の効率化が今以上に求められ貨物利用運送の需要はさらに高まると考えています。システムをテレワーク対応にしたことで、安全に外部から接続できる環境となったため、以前から検討していた県外企業などにシステムを提供するFC展開を検討していきます。また、2016年から関連会社のマスカット物流株式会社で一般貨物運送事業にも取り組んでおり、元請けとしての仕事量を増やして荷主からの信頼を高め、貨物利用運送の仕事につなげるなど相乗効果を図っていきます。

これからも、時代の変化とともに成長、改革を進め、お客様の困りごとを解決し役立つことで社会に貢献し、「岡山流通に任せてよかった」と言ってもらえるよう努めます。

